E 28

コーホート分析によるライフ・サイクルと家計構造

共立女子短大　馬場紀子

目的　家計構造のライフ・サイクル分析は，従来，主として世帯主年齢階級別データを資料に，一時点の横断分析および時系列分析というかたちで行われてきた。しかし，この方法は仮説的分析であり，加齢に伴う家計変動の現実的分析とはいい難い。本研究は，ライフ・サイクルのステージ（年齢）の進みと社会経済状況の変化の両者を考慮したコーホート分析により，現実の経済社会の動きの中に現れたライフ・サイクルと家計構造の関係を明らかにしようとするものである。

方法　総理府統計局の昭和39，44，49年の家計調査を用いて，全国・勤労者世帯のうち核世帯を対象に，5歳刻みの世帯主年齢階級別コーホートを作成し，所得，消費，貯蓄が現実にどのように推移したかを分析した。

結果　コーホート分析に利用可能なデータが昭和39～44年と短期間であるため，生涯の家計変動を追うことはできないが，20代から50代の各コーホートは，昭和30～50年代の経済の転換期を様々な形で乗り越えてきた。1）所得：各コーホート共通して，実収入，可処分所得ともに高度成長期の40年代に比べ低成長期の50年代で伸びが鈍化。勤め先収入は，世帯主の場合，若年齢層より中高年齢層のコーホートの上昇が鈍く，妻は30代後半から40代前半のコーホートの上昇が著しい。2）消費：消費支出は，30代のコーホートを除くと，加齢と低成長への移行が上昇を鈍化あるいは低下させる。しかし，1人当たりにすると若年齢層より中高年齢層のコーホートで伸びが大きい。3）貯蓄：貯蓄額，貯蓄率ともに各コーホートで，高度成長期の急激な上昇，低成長期の上昇鈍化あるいは低下傾向がみられる。